

## 2日 土曜

### コロサイ



1:9 こういうわけで、私たちもそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように。1:10 また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることにおいて成長しますように。

1:11 神の栄光の支配により、あらゆる力をもって強くされ、どんなことにも忍耐し、寛容でいられますように。

1:12 また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格をあなたがたに与えてくださった御父に、喜びをもって感謝をささげることができますように。

1:13 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

1:14 この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。

1:16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。

1:17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。

1:18 また、御子はそれからである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべての

ことにおいて第一の者となりました。

1:19 なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、

1:20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださいましたからです。

その信仰と愛に関して、パウロが感謝するほどのコロサイ教会の人々でしたが、それで完成していたのかというと、そんなことはありません。パウロは、まだ伸びしろとして、彼らが「知識に満たされる」ように、「成長」するように、「寛容でいられる」ように、「感謝をささげることができる」ようにと、願つつ指導しています。私たちも自分には成長の余地があることを喜び、指導を仰いでゆきましょう。

当時はグノーシス主義という教えが流行しており、十字架の福音もその前提で理解しようとする人が影響を及ぼしたようです。それによると霊は善であるが物質は悪であるということです。そして神は様々なものを創造したが、神から離れて生まれたものは、より悪い存在であるということで、物質は神から遠く離れて存在したので悪ということです。

そこではキリストは神によって創造され、他のものと同じく被造物に過ぎないということです。ただ神に近い存在なので、善であるにしか過ぎません。そこでパウロは、この手紙によってイエス様の神であることと、そのご性質と働きを明らかにしています。

ここにある「御子は...始めに生まれた」という表現は気になるところです。キリスト・イエス様は「御父と一つです。」とご自分が神と等しいことを明言され、ご自分が神として礼拝されることを望まれました。ヨハネの福音書には、ロゴスすなわちキリストが、「始めに」あったとその洗剤

性を明記しています。

この「先に生まれた」という表現は、詩篇などから分かるように、「初子」を表しているのです。そしてそれは全てに勝る立場であるという、榮譽に満ちた関係だということです。

そのような特別無比なるお方と親しい愛の交わりができることを、私たちも榮譽と覚えましょう。そしていっそう成長してゆきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

